

佐藤委員・猪狩委員からの見直し検討案に対する回答

	見直し検討案の内容	事務局回答
1	<p>新築及び大規模改修は2020年(平成32年)までの延期案「今回は減築と最少の改修」</p> <p>(1) 減築を耐震ギリギリまで面積を縮小し、既存面積を大幅に残す。</p> <p>(2) 不足分の面積はNTTビル賃貸・保健福祉センター・仮庁舎で検討する。</p> <p>(3) 病院機能を維持しながらの減築工事の事例を参考にする。</p>	<p>(1) 平成24年の庁舎減築検討業務にて耐震安全性(Is=0.75)の確認が取れているのは5階の一部を残すところまでです。今回、5階の全て、及び6階まで残す案について検討した結果、いずれも耐震安全性(Is=0.75)が確保できないことを確認しました。</p> <p>また、現庁舎の設備は全面的な改修が必要であり、庁舎機能を継続しながらの改修は困難であると判断しています。</p> <p>(2) 市回答</p> <p>(3) 提示いただいた藤田保健衛生大学病院ビラ・コスモスD棟減築改修工事について調査しましたが、工事の安全対策についてのデータは公表されておらず、検証できませんでした。</p> <p>設計事務所実績の居ながら減築改修工事においては、施設利用者の安全性が担保できないことから、減築工事範囲の直下については閉鎖することとしました。また、施工者数者にヒアリングの結果、減築工事範囲の直下を使いながらの工事については、安全性が担保できないとのことでした。</p> <p>以上より、設計者としては市民や市職員の安全を第一に考え、減築工事範囲の直下を使いながら工事を行うことは適当でないと判断します。</p> <p>また、現庁舎の改修工事は、エレベーターの更新、空調設備、給排水設備(トイレ等)の全面改修が必要であるため、庁舎機能を継続しながらの改修は困難であると判断しています。</p>
2	<p>ゼネコンへの「設計・施工」一括発注案</p> <p>(1) 松阪市庁舎の事例に習って</p>	<p>(1) (2) 実施設計・施工一括発注(デザインビルド)について調査しました。</p> <p>・最近の事例としては習志野庁舎、浦安庁</p>

	見直し検討案の内容	事務局回答
	<p>「設計・施工のプロポーザル」で手法と金額の提案をしてもらう。</p> <p>(2) 実施設計・施工一括発注案(現基本設計を大幅に減額した上で) ※工事監理は別</p>	<p>舎、松戸病院等がありますが、全て100億規模の工事です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザインビルト[®]に対応できる設計部をもつゼネコンは大手のみに限定されます。 ・今回は減築改修工事を含み、通常の新築工事と比較して難易度が高い設計となります。 ・デザインビルト[®]のターゲット規模としては一定規模以上(100億以上)であると考えられます。 ・現時点ではゼネコン各社とも設計部は繁忙な状況です。 ・以上の調査結果より、今回の工事をデザインビルト[®]とした場合に参加意欲があるゼネコンがいるかどうか疑問視せざるを得ません。
3	<p>減築・改修面積(最大限残し利用、一部耐震補強あり) + 新築棟(最少面積)の案</p> <p>(1) 減築を耐震ギリギリまで面積を縮小し、既存面積を大幅に残す。</p> <p>(2) 新築棟は最小限としPC造と鉄骨造の比較をする。</p>	<p>(1)(2) 新築棟の構造をS造に変更し、減築改修棟は4階のまま、新築棟の4階部分を大幅に削減した案(4-4減額案)、減築改修棟を5階の一部まで残し、新築棟を3階とする案(5-3減額案)について検討しました。</p> <p>結果として、削減できるコストは(4-4減額案)の方が大きく、また(5-3減額案)には構造上、建築計画上の問題があることが明らかになりました。(議題2資料参照)</p>
4	<p>鉄骨造の全体新築案の設計(概算付)案の検討</p> <p>(1) 減築・改修+新築案との比較で鉄骨造・PC造(RC造で比較)はやっていない。</p>	<p>(1) 市回答</p> <p>鉄骨造のブレース造とPC造の比較検討については、第16回会議において検討しており、耐震性能、変形という部分でPC造のほうが性能的によかったということで、PC造を選定しております。</p>